

令和5年度 学校評価 自己評価書

あま市立甚目寺南中学校

1 総括

(1) 教育目標 (学校経営案より)

校 訓	真 真理を求め続ける生徒・教師	め ざ す 姿	・自ら課題を見つけ、自ら考え、表現できる生徒・教師
	善 礼儀正しい生徒・教師		・心身を磨き、鍛える生徒・教師 ・場をわきまえ正しい判断のできる生徒・教師
	美 感性豊かな生徒・教師		・自分を大切にし、人も大切にできる生徒・教師 ・正しいこと、美しいものに感動できる生徒・教師

(2) 本年度の重点努力目標

- ア 生徒一人一人の「よさ」に着目し、伸ばしていく学校・学級づくり
- ・生徒が自己肯定感や自己有用感を高めることができ、自信をもって生活できるよう、生徒一人一人を認め、ほめることを大切にして教育活動を展開する。
 - ・教師は常に人権意識をもち、生徒一人一人に対して、温かく丁寧に対応する。
- イ 自ら学びに向かい、課題を解決し、「わかった」「できた」と実感できる授業の実践
- ・基礎的な学習内容の定着を図るとともに、授業に対話的な場面を取り入れ、主体的・協働的に学び、深く考えることを通して、「わかった」「できた」と実感できる授業を展開する。
 - ・特別な支援を要する生徒一人一人のニーズを的確に把握し、適切な指導及び必要な支援を行う。
 - ・ICT機器の積極的な活用により、子どもたち一人一人を取り残すことなく、資質能力を向上させるよう努める。
 - ・子どもにとって最大の学習環境は教員であることを教員が自覚して、授業研究や研修等に真摯に取り組み、自身の資質向上に努める。
- ウ 心豊かな生徒の育成
- ・日常生活の様々な場面について考えさせたり、外部講師による講話により学ばせたりすることにより、命を大切にし、他人を思いやり、人権を尊重する心を養う。
 - ・道徳の授業や全校及び学年での集会活動を核に、その場に適した判断力や道徳心を身につけさせ、規範意識の醸成、モラル向上を意識して教育活動に当たる。
 - ・体験的な学習を重視し、個の可能性の伸長に努め、生涯学習の基礎的能力や態度を培い、社会において主体的に生きていくための力の育成を図る。
 - ・発達段階に応じた心の教育やQ-U調査、クレペリン検査等を活用して温かい人間関係づくりに努める。
- エ 心を育てる環境づくり
- ・教師が日常的に「温かい語りかけ」を意識し、学校中に温かい心が通い合う雰囲気作りに努める。
 - ・教師が丁寧な言葉づかいを心がけ、校内全体に、正しい言語環境を構築する。
 - ・トイレスリッパの整頓、下足箱・教室内の整頓、清掃への熱心な取り組みなど、教師が垂範しながら環境美化を推進し、美しく整った環境下で教育活動が展開されるように努める。
 - ・ユニバーサルデザインを意識した、人に優しい環境づくりに努める。
- オ 家庭・地域・校種間連携の推進
- ・家庭との連携を密にし、生徒を多面的にとらえ、生徒の健全育成を目指す。
 - ・学年通信や各種通信、ホームページ等により、学校から家庭や地域へ積極的に情報発信する。
 - ・コミュニティスクールを積極的に活用して、地域及び関係機関等の教育力を生かした「開かれた学校づくり」の具現化を進める。
 - ・本校の教育活動をより充実させるために、学校評価を実施し、その結果を有効活用しながら学校運営に生かす。
 - ・義務教育9年間を見通し、学習・生活面での指導や支援をより充実させるために、小・中学校教育及び近隣中学校との相互理解を図るための交流活動を行う。
- カ 多忙化解消のための業務改善
- ・行事の精選や、諸会議の勤務時間内終了、ICT機器の効果的導入により、教職員の業務負担軽減に努める。
 - ・定時退校日を月1回以上設定する。
 - ・働き方改革を進めることは、学校教育の質の向上につながることを、保護者や地域の方々に理してもらえよう働きかける。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和5年11月14日(火)～12月4日(月)

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数/対象者数

・生徒 472名/全547名 ・学校運営協議会 10名/11名(教職員除く)
・保護者 417名/全503名 ・教職員 30名/全31名 計929名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考察

- (1) 新型コロナウイルスが5類になり、今まで制限されていたことが緩和され、以前のような学校生活が戻ってきたと感じている生徒と教師が多い。今後は、学校教育活動のうち真に必要なものを継続させ、新しい学びのあり方に必要な活動の模索を図っていききたい。
- (2) 今年度の重点目標である「生徒一人一人のよさに着目し、伸ばしていく学校・学級づくり」については、「教師は、よりよい学級づくりに努めている」また、「学校での学習や生活を通して、生徒が成長していると思う」といった質問で検証したところ、「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした生徒の割合が、昨年度と比べると大きく増加した。これらから、生徒にとって「学校」や「学級」が安心でき、自分を成長させる場所になっていると考える。今後も人権を尊重した声かけをし、傾聴の姿勢で関わることに努めていききたい。
- (3) 総時間外勤務時間の削減を意識して、仕事に取り組む教職員が増加した。「帰れるときは早く帰る」というキャッチコピーをかかげ、勤務時間の割振り変更を意識的に行った結果の表れであると考え。さらにICTを有効活用し、業務改善を行ったことも総時間外勤務の削減につながったと考える。日々の情報共有が、タイムリーに漏れなくできるGoogleチャットや紙テストの採点システム「百問繚乱」が功を奏しており、今後も活用していききたい。
- (4) 学校運営協議会委員からは、「生徒たちが楽しそうに学校生活を送っている」や「学校生活を通して日々成長している」と肯定的な回答を多く得ることができた。一方、「登下校の様子で道幅いっぱい広がって自転車に乗っているところを見かけ、気になった」とご指摘を受けた。普段の声かけや授業の時間をつかって、交通ルールが何のために存在し、どのような意義があるのかを再確認していききたい。
- (5) 保護者の学校評価の記述の中から、「紙媒体で配付されるより、SNSを利用して家庭連絡をしてほしい」といった要望があった。出欠席の報告をメールで行うシステムを小学校が取り入れている現状も踏まえて、SNSのよさを生かした家庭との連携を考えていききたい。

5 成果と課題

(1) 学校生活

「先生は生徒ともに諸活動に取り組んでいる」の問いに対して「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした生徒・教師の割合は昨年度より増加した。コロナ禍でできなかったことが、挑戦できるようになった1年だった。学校祭や宿泊行事、職場体験などでひとまわり成長した生徒の姿を見ることができた。しかし、「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者は、昨年度よりも減少している。生徒が様々な体験を通して成就感や達成感を味わったことを、保護者に伝わるような工夫を行っていききたい。

「生徒が発言したり活動したりする工夫をしている」といった教師への質問に対しては、「とてもそう思う」と肯定的な回答をした教師の割合が、昨年度と比べると増加した。これは、授業の中の制限がなくなり、グループ活動や話し合いなど、生徒が主体的に活動できる授業が多く展開されたからだと考える。生徒からも8割以上の肯定的な回答を得ている。今後は、対話活動を通して、相手を意識して話したり、聞いたりすることを身に付けさせ、双方向的な関係を築きながら話し合いができる生徒を育成していききたい。

部活動については、コロナ明けで対外試合や練習時間が昨年度よりも増え、意欲的に活動できた」といった回答が保護者と教師ともに増加した。しかし、生徒の肯定的な意見が減少した。少ない練習時間の中で、指導者が生徒に充実感を味わわせるための効率的な指導法を身につけていかなければならないと考える。

(2) 生徒指導

「生徒は、学級の人や友だちを大切に生活している。先生は、学級の人や友だちを大切に生活するような生徒の育成に努めている」という質問に対して「とてもそう思う」「少しそう思う」と肯定的な回答をした保護者、生徒、教師の割合が昨年と同様、90%を超えていた。これは「こころUPタイム」のミニ道徳の取組やカウンセラーによる「心の授業」を行った成果である。また、保護者から「理解に苦しむ服装規定や髪型の制限など、時代に合わない

校則があると思う」といった意見が出された。学校を取り巻く社会環境や生徒の状況は変化するため、生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況などに応じて、今後も校則の見直しに取り組んでいきたい。

(3) 人 権

「先生は、生徒が言葉遣いに気をつけて生活するように指導している」といった教師への質問に対して、「言葉遣いの指導をした」と回答した教師は昨年度よりも増加している。しかし、友達や先生への言葉遣いに気をつけている生徒の割合が、昨年度と比べると減少する回答結果となった。保護者からも「言葉の大切さを学校内でも理解を深めていただきたい」といった意見があがった。集会での教師の話や道徳の授業・日常生活における教師の働きかけなど日々の指導を一層充実させ、仲間を思いやり、周囲への気配りができるように根気強く指導していきたい。

(4) 環 境

昨年までの記述アンケートでは、「トイレをきれいにしてほしい」との意見が複数あった。後期にはトイレの改修工事が終わり、きれいになったトイレを維持するために、生徒が啓発ポスターを作成し、環境美化を呼びかけたり、各学級でトイレの使い方や清掃のやり方について話し合ったりした。

また、保護者向けに「ホームページで学校の様子がよく分かる」といった質問をしたところ「とてもそう思う」「少しそう思う」と肯定的な回答をした保護者の割合が、昨年度よりも増加した。しかし、「ホームページで部活動や学校での日々の生徒の様子をもう少し展開して欲しい」といった声が保護者と学校運営協議会委員の方からあがった。保護者や地域の方が「知りたい情報」をリアルタイムで分かるように、充実したホームページになるよう改善していきたい。

6 改善策

(1) 学校生活

生徒が「学校は楽しいところ」と感じる学年、学級経営を行っていききたい。それには、学校に来たら「分かることが増えた」「できることが増えた」と実感できる魅力ある授業づくりに努めていくことが大切である。そのためには、教師の指導力向上のための研修を推進していく必要がある。特に、タブレット活用が当たり前になってきた今、研修では単にICT機器の操作ができるようになればよいというだけではなく、操作スキルの向上とともに授業のどの場面で、どのように活用すれば教育効果を高めることができるかということを具体的にイメージできるような内容を取り入れていきたい。

(2) 生徒指導

基本的な生活習慣を意識させるために、スケジュール帳を導入して、自己管理能力を高めていきたい。さらに、日々の予定を確認するだけでなく、頑張ったことを週ごとに目標として書かせ、それに向けて取り組ませていきたい。一方、交通安全指導、校則については、保護者の理解と継続的の説明が必要である。頭髪・服装については規定などを保護者に確実に伝わるようにすることで、理解を図っていききたい。

また、生徒理解にもとづく対話を今後も大切にしていきたい。生徒理解とは、生徒の置かれている状況を理解し、ありのままを受容する行為である。具体的には「分かっただけ」ことである。それは顕著な問題行動を繰り返す生徒ばかりでなく、それ以外の生徒に対しても同様の対応が求められる。生徒理解とは生徒を甘やかすことではなく、生徒個々に寄り添い、現状を理解させ、自分自身を振り返らせ、自分を律する心をもたせることを意識して指導に臨みたい。

(3) 人 権

反抗期を迎えることで侮蔑する言葉や、他人を攻撃する言葉を今までよりも使うことが増えてくる。侮蔑的、攻撃的な言葉を言った場合は、言われた相手がどう思うのかということ、相手が傷ついてしまうことを理解させ、毅然とした態度で指導していきたい。また、月曜の朝に月1回のペースで行っているところUPタイムを来年度も続け、生徒に道徳的心情を高める取組を行っていききたい。

(4) 環 境

保護者や地域の方々に対して、学校行事等のイベントだけではなく、普段の授業の中で大切に取り組んでいることも、ホームページで情報発信していきたい。また、欠席連絡手段として、今までの電話連絡に加え、スマートフォンのアプリやメールを使った「欠席連絡システム」を導入し、より早く、より確実に伝えることができるようにしていきたい。

環境整備では、もともとPTAが親父の会とともにしている美化活動にボランティアで生徒も参加できるような事業を考えたい。子どもたちが地域の大人との関わりをもち、ほめてもらったり認められたりする経験を通して、地域に住む人々とながら、地域への愛着がもてるようになっていければと考える。